

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00502

研究課題名(和文) 20世紀初期日本大衆小説の朝鮮文学への影響様相

研究課題名(英文) The Influence of Japanese Popular Fiction on Korean Literature in the Early 20th Century

研究代表者

和田 とも美 (WADA, TOMOMI)

富山大学・学術研究部人文科学系・准教授

研究者番号：60313582

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：富山大学附属図書館所蔵朝鮮開化期大衆小説コレクションに含まれている資料のうち、原作者の明らかにされていないものについて検討を行った。そのうち『人情悲劇小説(*哀れな兄妹*原文朝鮮語)』は、小説冒頭に「涙香」と記されているのみで、詳細が不明である。韓国ではこの小説を「原作者不明の翻案」と分類し、その後の研究はない。この「涙香」について日本の作家黒岩涙香とみなすべきかについて検討を行った。その結果、日本の黒岩涙香の作品とみなすべきではなく、むしろ朝鮮半島の文学史を受け継ぐものとして解釈されるべき作品という結論に至った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

韓国側の研究で「原作不明の翻案」と分類され、日本の大衆小説の翻案小説とみなされていた資料について検討を行った結果、日本の大衆小説の翻案とみなすべきではなく、朝鮮半島の文学史を受け継ぐものとして解釈されるべき作品という結論に至った。日本文学の影響関係は日本側の研究者が担うべき役割であり、早期に韓国および日本で学術誌に論文として発表する準備を続けている。

研究成果の概要(英文)：About the fictions included in the University of Toyama Library's collection of Korean popular Literatures during the period of Early 20th century, I examined those for which the original author is unknown. Among them, the details of "A Novel of Human Tragedy, Pitiful brother and sister" are unknown, with only the inscription "by Nuhyang" at the beginning of the novel. In Korea, this novel is classified as an "adaptation of an unknown original author," and no studies have been done since then. I examined whether this "Nuhyang" should be regarded as the Japanese writer Kuroiwa Ruikou. As a result, I came to the conclusion that it should not be regarded as the Japanese writer Kuroiwa Ruikou, but rather should be interpreted as an inheritance of History of the Korean literature.

研究分野：朝鮮文学

キーワード：朝鮮文学 日本文学 大衆文学 廉価本

1. 研究開始当初の背景

近代以前の小説から近代以降の小説への移行期に朝鮮半島で流通した「タクチ本」、すなわち廉価本小説群を検討対象とした。19世紀までは中国文学の圧倒的な影響下にあった朝鮮半島の小説が、19世紀末からは日本や欧米の小説を参照する例が目立つようになったことは、既存の研究によって確認されている。主に日本文学史の主流を成す文学からの影響が研究対象とされている。しかし論者は、朝鮮半島の廉価本小説は、日本文学史に名を残す著名な作家や作品よりも、当時の流行りの大衆小説との呼応関係が強いことをかねてより検討してきた。検討の結果、日本の明治期の大衆小説が、日清・日露戦争を経験する中で、国民の敵愾心を鼓舞し、国民を統合する役割を果たそうとしていることに対し、朝鮮の廉価本小説では、「国」が日本に併合される過程で、「国」への統合意識を鼓舞することができなくなり、「家」への回帰を小説の結末とすることを明らかにした。

今回は、これまでの検討をふまえて、日本の大衆小説との一対一の対応関係を離れ、翻訳ものも含めて、当時流通していた読み物全般の中で関係する資料を調査することとした。

また富山大学附属図書館所蔵の「朝鮮開化期大衆小説原本コレクション」については、韓国の国文学研究からも調査され、韓国内に所蔵が確認されない資料については「唯一本」と呼ばれ、検討の対象とされてきた。そのうち「原作不明の翻案」に分類されている小説については、それ以上調査が進まない状況にあった。「原作不明の翻案」について日本の大衆小説との対応関係の確認を進めることとした。

2. 研究の目的

近世朝鮮の物語本から近代文学への架け橋と評価される李人植の小説(血の涙、1906)は、日本の大衆小説家である村井弦斎の『血のなみだ』(1896)を参照したことが明らかである。李人植は、参照した日本の作品を自らの作品のタイトルに入れたことになる。本研究では、これを読者への一つのメッセージとしてとらえ、積極的に関連性を見出すところから出発した。村井弦斎のみならず、1900年を前後する日本の大衆小説群において「血涙」という言葉をめぐって、どのようなイメージが形成されているかを明らかにしようとした。

また韓国側の研究において「原作不明の翻案」となっている富山大学附属図書館所蔵の朝鮮語の廉価本小説については、日本の大衆小説の翻案である可能性を踏まえ、特に作者として「涙香」と漢字で記載されている作品について、日本の大衆作家である黒岩涙香の作品の翻訳か翻案である可能性を調査することを目的とした。

3. 研究の方法

日本の大衆小説群において「血涙」という言葉がどのように使用されているのかを調査した。黒岩涙香の作品を調査し、翻訳か翻案の原作と考え得る作品の有無を調査した。また作者「涙香」と記載されている20世紀初頭の朝鮮語の作品がさらに無いか調査した。

4. 研究成果

調査の結果、当該時期の日本の大衆小説では、「血涙」という言葉が作品の題名として多用されていることが明らかになった。その作品群は、日本の小説本はもちろん、外国文学の翻訳作品も含んでいる。

「血涙」という言葉が、苦難の道のりを歩む人物の精神的苦しみを表現するのは、漢文に由来する。欧米系の言語では、「血涙」という言葉は、単純に血液交じりの涙であり、精神的苦闘を表現するものではない。翻訳された外国文学の原題にも、「血涙」という単語は含まれていない。にもかかわらず、日本で日本語で翻訳作品として刊行される際に、作品の内容を端的にあらわす題名として「血涙」という言葉をわざわざ使用している作品が複数見出された。

これらの作品のテーマは共通している。李人植の小説(血の涙、1906)は、題名に「血涙」という言葉を使用することによって、「血涙」という題名を付された日本の大衆小説や、日本以外の外国の小説と、そのメッセージを共有させたことが明らかになった。

また、作者「涙香」という記載のある20世紀初頭の朝鮮語の作品は、他には一作品のみコロンビア大学に所蔵されていることが確認された。その作品と、富山大学所蔵の二作品について詳細に検討した結果、黒岩涙香の作品との具体的な対応関係は確認されなかった。むしろ作品に書き込まれている犯罪の嫌疑を晴らす過程では、近代以前の朝鮮半島の小説で流行した「訟事小説」

の展開の流れが受け継がれていることが確認された。韓国の古典研究においては「訟事系古典小説」とされる類型に関する研究が多く行われており、朝鮮半島において冤罪とその無実証明の過程がどのように物語化されてきたのか、という問題について、古典研究から多くの示唆を得ることができた。また随所に植民地時代の朝鮮に特徴的な事象が書き込まれており、その点においても日本の大衆小説の翻訳や翻案とみなすことは妥当ではないことを明らかにした。

つまり、作者は「涙香」という日本の流行作家の筆名を使用し、黒岩涙香の得意分野であった犯罪小説という枠組みを一定程度、作品にとりいれたことは確かと言えるだろう。しかしその参照は表層的なものにとどまっており、小説の構造は、近代以前の朝鮮半島における「訟事小説」の構造を受け継ぎながら創作されていると見なすことができる。

これらの検討結果については、韓国のソウル大学や慶北大学で秋に実施される国際学術大会で発表することとなっている。また日本国内の学術雑誌にも発表予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 和田とも美
2. 発表標題 ハンプリと仇討 - 20世紀初期日朝廉価本小説に表れた復讐の構造
3. 学会等名 国際学術シンポジウム「韓国近代小説の展望と争点」（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 和田とも美（コロナ禍により無期限延期）
2. 発表標題 1930年代の無名作家浜香 - 富山大学所蔵本及びコロンビア大学所蔵本を通じて
3. 学会等名 九州大学韓国研究センター主催研究集会「韓国近代文学史における史料と実証」
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------